

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙 4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月1日

【評価実施概要】

事業所番号	870300852		
法人名	池田観光株式会社		
事業所名	鶴沼の里		
所在地	土浦市神立東2丁目21-22 (電話) 029-834-0011		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	茨城県水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館2階		
訪問調査日	平成19年5月23日	評価確定日	平成19年11月20日

【情報提供票より】 (平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月16日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤	13人, 非常勤10 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1～ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有 (250,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (4 月 1 日現在)

利用者人数	22 名	男性	3 名	女性	19 名
要介護1	8	要介護2	2		
要介護3	6	要介護4	4		
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 82.59 歳	最低	64 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神立病院、筑波病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、「家族以上のケア」をホームのモットーとしており、職員のケアはやさしさに溢れ、ホーム全体が居心地よくあたたかい。
ホームの中庭で毎朝リハビリ体操をしたり、多くの渡り鳥が飛来する鶴沼公園を散歩するなど、戸外活動を多く取り入れ、機能低下予防に努めている。
無農薬野菜を食材に使い、家庭な雰囲気の中で、当たり前前の生活を送れるよう、支援しており、入居者や家族が安心できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 玄関のドアは、オートロックになっており、自由に開けられないようになっていたが、鍵をかけることの弊害を職員間で話し合い、利用者の行動パターンの把握やセンサーを活用するとともに、見守りを徹底するよう、改善している。 非常口の階段が高く、非常時に使用することが困難となっているが、前回の調査時より改善しておらず、認知症や車椅子を利用している利用者には段差のある階段は危険であり、スロープを設置するなどの改善策を提案する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は交替して日が浅く、前回の外部評価の結果を把握し、全てを改善するまでには至っていないが、外部評価の意義を理解している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議のメンバーを選んでいるが、会議を開催するまでには至っていない。 運営推進会議は、地域の代表者や利用者の代表及び行政から、ホームのサービスや質の向上に向けた意見や情報交換を行う貴重な場となるので、会議の開催に向け、早急に取り組むことを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書にホームの窓口や担当者、外部苦情申し立て機関を明示するとともに、介護相談員を受け入れ、利用者が悩み事などを話している。 不満や苦情があればその都度話を聞き、対応するとともに、玄関に苦情受付箱を設置している。 月1回、家族あてに金銭の収支状況について、領収書を添付して報告するとともに、利用者の身体や生活の状況を記し、報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小学校の運動会に毎年参加したり、中学生の職場体験実習を受け入れている。 隣り近所の方々と日常的に挨拶をするとともに、散歩時も言葉を交わしているが、地域の行事等に参加するまでには至っていない。 地域活動の参加を通じて、利用者が地域の方々と交流を図る機会を設けるとともに、ホームを交流の場として開放するなどの取り組みを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳を守れるよう、ケアに取り組んでいる。 鶴沼公園にある散歩道を散策するなど、戸外活動を多く取り入れ、近隣の方々と利用者が交流する機会を設けるとともに、身体機能低下の予防に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務室に掲示するとともに、朝の申し送り時に、理念を復唱している。 利用者が家庭の延長で穏やかな生活が送れるよう、また、「今できること」を喜びをもって取り組めるよう、支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会に毎年参加したり、中学生の職場体験実習を受け入れている。 隣り近所の方々と日常的に挨拶をするとともに、散歩時も言葉を交わしているが、地域の行事等に参加するまでには至っていない。	○	地域活動の参加を通じて、利用者が地域の方々と交流を図る機会を設けるとともに、ホームを交流の場として開放するなどの取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は交替して日が浅く、前回の外部評価の結果を把握し、全てを改善するまでには至っていないが、外部評価の意義を理解している。 玄関のドアは自由に開けられないようになっていたが、鍵をかけることの弊害を職員間で話し合い、利用者の行動パターンの把握やセンサーを活用するとともに、見守りを徹底するよう、改善している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーを選んでいるが、会議を開催するまでには至っていない。	○	運営推進会議は、地域の代表者や利用者の代表及び行政から、ホームのサービスや質の向上に向けた意見や情報交換を行う貴重な場となるので、会議の開催に向け、早急に取り組むことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とはホームの空き状況等について情報交換を行うとともに、利用者受け入れの相談に乗るなど、連携を図っている。 グループホームへの理解を得られるよう、小学校の運動会に毎年参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、家族あてに金銭の収支状況について、領収書を添付して報告するとともに、利用者の身体や生活の状況を記し、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの窓口や担当者、外部苦情申し立て機関を明示するとともに、介護相談員を受け入れ、利用者が悩み事などを話している。 不満や苦情があればその都度話を聞き、対応するとともに、玄関に苦情受付箱を設置している。 家族の面会時に、ホームへの要望などを聞き、住みやすい生活が送れるよう支援している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって馴染みの職員による支援を受けることは、心身の安定につながることから、職員の離職を回避するよう、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3年以上勤続の職員は、実践者研修を受講できるなどの体制になっているが、職員の段階に応じた研修を受講できる体制づくりには至っていない。	○	職員の更なる質の向上を図るため、受講する研修を限定するばかりでなく、職員の経験年数等に応じた内部、外部の研修を受講できる、体制づくりが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域や県内の同業者と交流する機会やネットワーク作りを行うまでには至っていない。	○	県のグループホーム連絡協議会等の加入の検討や会が主催する研修会等に参加するなどにより、交流する機会を設けるとともに、地域のグループホームに連絡するなど、交流する働きかけをすることが望まれる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時に利用者や家族に本人の生活歴などの情報を聴取するとともに、特に不安に感じることはアセスメント表などに記録している。 生活する中で、利用者が少しずつホームに馴染んでいけるよう、支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護するばかりでなく、食器を洗う人や裁縫をする人、広告チラシで暖簾を作る人など、利用者一人ひとりの得意なことを把握し、取り組めるよう場面づくりを行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から聞いた生活歴の記録や家族からの希望などを聞いている。 意思の疎通が困難な入居者に対しても、分かり合えるまで話を聞き、希望を叶える事ができるよう、対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と話し合いや家族に希望等を聞き、本人のニーズに添った、具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりのモニタリング表を作成しており、経過の観察等の記録を行い、期間の満了時に介護計画の見直しを行っている。 また、利用者の状態に変化があったときは、利用者や家族と話し合い、状態に応じた見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院が必要な利用者には、職員が病院等へ送迎している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な検診や入居者それぞれの状態に合わせて、心療内科、脳外科などの受診することができる体制となっている。 また、緊急時には看護師を通じて病院と連携できる体制となっており、利用者や家族が安全で安心な医療を受けられるよう、支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算を取得しており、重度の利用者には、看護師を中心として全職員がケアに取り組んでいる。 ホームが利用者にとって終の棲家となるよう、利用者の状態の変化に対する対応方法を研修するなど、終末期の対応に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーの尊厳を守れるよう、言葉かけや支援を行っている。 契約時に個人情報を漏らさないことを家族に説明するとともに、運営規程に明示し、職員にも周知を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、利用者の希望に応じた過ごし方を支援している。 異性との生活を拒む利用者が混乱しないよう、ユニットに異性を受け入れないよう、配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に野菜の皮むきなどの食事の準備や食器洗いや食器拭きなどを手伝ってもらえるよう、働きかけている。 食事の時間は、利用者と会話が弾み美味しく食べられるよう、支援している。	○	食事の時間もテレビをつけているので、利用者と相談して、必要がなければ消すなど、食事の時間を充実させる更なる取り組みを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番は同じ順番にならないよう、クジで決めている。 また、利用者が安心して入浴できるよう、職員は見守りを行っているが、入浴が週2回と決められており、利用者の希望に応じた支援をするまでには至っていない。	○	入浴日以外で利用者が希望したときの支援のあり方や入浴を拒む利用者への働きかけや対応方法を検討することを期待する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や希望、できることをアセスメント等で把握するとともに、草取り、洗濯たたみ、食事準備、後片付けなど、利用者のできる事を声かけなどにより、働きかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホールの中庭でリハビリ体操をしたり、週2回は近所の鶴沼公園を散策している。 また、月1回は利用者に外出先の希望を聞き、車でドライブにでかけるなど、ホームに閉じこもらないよう、支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のドアは、オートロックになっており、自由に開けられないようになっているが、鍵をかけることの弊害を職員間で話し合い、利用者の行動パターンの把握やセンサーを活用するとともに、見守りを徹底している。 また、外出した場合は、引き止めるのではなく、職員が付き添いしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年に1回、職員と利用者で避難訓練を実施しており、昼夜を問わず入居者が避難出来るよう、訓練している。 事務室には緊急時、直接消防署へつながる電話機を設置しており、早急に対応できる仕組みとなっている。	○	あらゆる災害を想定した訓練に取り組むとともに、地域の消防署や地域の方々とともに訓練ができるよう、検討することが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、バランスの取れた献立を心がけるとともに、利用者が美味しく食べることができるよう、盛り付けや味付けの工夫を行っており、食事の摂取量を把握している。 水分不足にならないよう、注意するとともに、利用者が希望する飲み物を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールや廊下などは綺麗に掃除しており、清潔を保つとともに、季節の花を飾っている。 光が強い場合はカーテンで調整しており、不快に感じる音は無い。 共用の空間には、ゆったりと座れるソファの設置やホールに天窓を設置しており、昼は自然の光が差し込、夜は星を眺めるなど、居心地よく過ごすことができる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階の居室は天窓から光が入り、明るく居心地よい空間となっている。 居室は使い慣れた家具や仏壇、趣味のものなどを持ち込み、配置するなど、利用者が安心して生活できる居室となっている。	○	ホームで提供しているベッドの活用について、利用者の状態や状況に応じて自由に選ぶことができるよう、検討することを提案する。

※  は、重点項目。